

■【トピックス】
首相退陣！



9月に7年8か月続いた第2次安倍内閣が終焉を迎えました。第1次安倍内閣同様に安倍首相の健康問題に起因する終焉です。第3次安倍内閣があるかどうかは分かりませんが憲政史上最長の政権でした。

安倍内閣については、功罪いろいろあると思いますが、このコロナ禍の状況における退陣には不安が残ります。次の菅政権のコロナ対策が試されます。失敗すれば多くの人命が失われます。

■【ビジネス・アイ】
尊厳死！

- 社長 「この冬にかけてコロナとインフルエンザが同時に流行するとかいわれているね」
 花野 「そうですね。そうするとまた重症化する人も高齢者を中心に多くなりそうですね」
 社長 「それが心配なんだよ。私も高齢者だから重症化リスクが高いんだよね」
 花野 「高血圧もあるとおっしゃっていましたよね」
 社長 「うん。そこでもしコロナに感染して重症化した場合に、治る見込がないのであれば、生命維持装置とかはいらないと思っているんだよ」
 花野 「そうですね。治る見込みがないのに苦痛が続く治療は受けたくはないですよ。それであるならば、公証人役場で尊厳死宣言公正証書を作成したり、公益財団法人日本尊厳死協会のリビングウィルを利用する方法がありますね」
 社長 「それってどういう方法なの？」
 花野 「尊厳死宣言公正証書は、単なる死期を引き延ばすだけの延命治療を望まないことを公証人役場で公正証書として作成し、親族などに託しておきます。リビングウィルは同様の内容の文書を作成して日本尊厳死協会にコピーを預ける形になります」
 社長 「そうなんだ。それで実際に効力はあるの？」
 花野 「法的には強制力はありませんが、リビングウィルの医師による尊厳死許容率は近年では9割を超えているとのことですよ」
 社長 「それなら一度考えてみるよ」

■【今月のキーワード】
リビングウィル（事前発効遺書）

医学の進歩によりこれまで救えなかった命が救われるようになりましたが、その一方その結果、患者が望まない植物状態による生命維持という事態も起こるようになりました。そこで患者本人がインフォームド・コンセントのもと、治療法を前もって指定することが患者本人から望まれるようになりました。その選択を明文化した文書のことを事前指示書とか生前発効遺書とか呼びます。尊厳死宣言公正証書は事前指示書であり、リビングウィルは生前発効遺書です。

■【今月の1冊】

『なぜ星付きシェフの僕がサイゼリヤでバイトするのか？』

村山太一 著
飛鳥新社 ¥900

コロナ禍の中、飲食店は大きな打撃を受けています。中には倒産や廃業するお店も出てきています。

そんな中、黒字を続けているミシュラン1星のイタリアン・レストランがあります。経営に役立つと思えば、オーナーシェフ自らがサイゼリヤにアルバイトに行きます。危機に立ち向かう方法がそこにはあります。



■【編集後記】

先の見えないコロナとの戦いが続いています。新しい生活様式に慣れる部分と、人との距離が遠くなった分だけ、逆にストレスになるところもあります。もうコロナ以前に戻ることはないでしょうから、新しい社会に早く対応する必要があります。

『経営のセカンド・オピニオン』vol.163（毎月1日発行）

- 定価：2,400円/年 ●発行日：2020.10.1 ●発行人：花野康成
- 編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア
- 〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F
- TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808